

令和4年度 自己評価・学校関係者評価書

令和 5年 3月 20日

静岡聖光幼稚園

1 幼稚園の教育目標

- 自然を素直に受け止め、自然と向き合う感性や意欲を育てよう
- 人と共に生きることの喜びを味わうことのできる社会性を育てよう
- 社会の中で自尊心を持って、自分で生活を営む生きる力を育もう

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1 子ども主体の活動について考え、取り組もう。
- 2 行事について各学年や全体で見直していこう。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由	関係者評価
①保育の計画性	B	教育課程の見直しは、全体で着手できて良かった。 学年によっては、まだ計画について足りない面もあった。	○
②保育のあり方 幼児への対応	B	満3歳児クラスが、毎月入園する子がいる状況になっていることについて、もう少し工夫して考えていきたい。	△
③教師として資質 能力、適正等	A	連携を取りながらチーム保育を上手に行っていた。 子ども一人一人に対し、丁寧に接することができていた。	○
④保護者への対応	A	園全体として役割分担を活かしながら、対応に取り組むことができていた。	○
⑤地域の自然や地 域との関わり	B	コロナ禍がまだ多少継続している影響もあり、思うようにいかない面もあった。	△
⑥研修と研究	B	特別支援などといった具体的な内容について、受けたいものを受けるといった形があるとより良い。	△
⑦環境整備、 安全点検	B	点検は、その都度しっかり行っているが、改善について時間を要するものやそこまでできていない現状があった。	△

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子ども主体の活動について、製作活動など工夫を凝らしてきたが、活動のみならず園生活全般でさらに考えていけると良いと感じた。

教育課程の見直しが行えたことは良かったが、それを実行に落とし込むことが大切。行事の在り方についても、コロナ禍などの社会情勢を見ながら、積極的かつ柔軟に工夫して対応していきたい。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
子どもの主体性について、活動に限らず園生活全体で見直そう。	学年ごと主体性についてよく話し合い、活動のみならず、園生活を送ることについて、色々な事象を検討し、実行する中で反省や改善を積み重ねていく。
地域との関わりや異年齢交流について、検討しよう。	コロナ禍が落ち着いてきたこともあり、これまでの内容を再検討しながら、より良い教育課程を実行できるよう取り組む。
主体的な遊びにおいて、園や地域の自然を有効的に取り入れよう。	園内の自然環境を活かし、主体的に季節ならではの遊びが展開できるよう工夫する。また、地域の自然にも目を向け、子どもたちの気づきやきっかけとなるよう取り入れる。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

全体的なチームワークの良さが感じられ、雰囲気も良い中で保育が行われていることは大変良い点である。

研修において、教職員が専門的な研修を受けることに意欲を示しているため、工夫して受講できるように取り組んでいけるとより良いと感じる。

コロナ禍によって、教育課程が思うように遂行できない期間が続いていたが、特に地域との連携や異年齢交流について、教職員全体の共通課題として認識していることから、次年度の取り組みに期待したい。

上記、学校評価の報告を受けた事を証明します。

学校法人 大石学園
静岡聖光幼稚園
理事長 大石和正